

わかる授業の実現をめざした支援の工夫

社会 第1学年

志賀町立富来中学校・教諭

1 事例の概要

本校では、2年前から生徒の「確かな学力の育成」をテーマに学校研究の実践に取り組んでいる。研究当初は「確かな学力の育成」に関わる自校の課題は何であるのかについて、繰り返し議論してきた。その議論の過程で導きだされた研究の重点が、「わかる授業の実現」であった。

「わかる授業の実現」に不可欠なものは、生徒の学習意欲である。教師は、生徒の学習意欲を喚起し、「わかった!」「できた!」と実感できるような学びを実践しなければならない。

そこで本校では、授業改善に関わる課題を教師間で分析し、「わかる授業の実現」に向けて、「授業スタイルの定着」「学習指導に生かす評価の工夫」「学習意欲を引き出す教材の工夫」を研究の視点として位置づけて、研究に取り組んでいる。

A-1 学校研究の3つの視点**2 実践内容****(1) 単元の目標**

- ・ 世界の古代文明に関心をもち、古代におけるわが国の歴史の大きな流れについて意欲的に学習している。
(社会的事象への関心・意欲・態度)
- ・ 国家の形成と天皇・貴族の政治の展開のあらましや文化などから課題を見出し、歴史の流れと時代の特色を多面的・多角的に考察している。
(社会的な思考・判断)
- ・ 国家の形成と天皇・貴族の政治の展開のあらましや文化などに関する様々な資料を収集し、適切に選択して活用するとともに、追求し考察した結果をまとめたり説明したりしている。
(資料活用の技能・表現)
- ・ わが国の歴史とかかわる東アジアの歴史を背景に理解し、国家の形成と天皇・貴族の政治の展開のあらましや文化の特色など、その知識を身に付けている。
(社会的事象についての知識・理解)

(2) 指導上の工夫点

- ① 『授業スタイルの定着』をめざした工夫
 - ・ 課題解決型学習を意識化できるよう1時間の授業の流れをフローチャート化
- ② 『学習指導に生かす評価』の工夫
 - ・ 評価観点に基づく支援シートの作成と活用
- ③ 『学習意欲を引き出す資料(活用)』の工夫
 - ・ プレゼンテーションソフトを使った授業
 - ・ ビデオクリップの教材化と授業での活用

B-1 授業のフローチャート化**B-2 支援シート**

3 指導の実際

主な学習活動	支援 (○) 個への支援 (●) 評価 (◇)	学習段階
1. 前時の振り返りを行う。 ・四大文明の名前を確認しよう。 ・それぞれの文明が栄えた場所は何という川の流域だったかな。	○世界地図を見ながら、名称だけでなく位置も確認できるようにする。 ●遺跡の写真を提示する。	導入の段階
2. 縄文、弥生の暮らしについて考察する。 ・ワークシートで現代の暮らしとの違いを見つけよう。 ・違いについて発表しよう。 ・使っていた道具の特色を見てみよう。	●違いを見つける視点を助言する。 ○レプリカや写真資料を提示して、特色がとらえやすいようにする。	把握の段階
課題 日本列島に住む人々の生活は、どのように変化したのだろうか		
3. 縄文と弥生の「むら」の様子の変化を比較する。 ・ワークシートのイラストで、縄文と弥生の「むら」の様子を比べてみよう。 ・見つけた変化をワークシートに記入しよう。	◇縄文時代と弥生時代の「むら」を比較して、生活の変化を考察している。 【ワークシート】 ○支援シートを配布し、考察する視点を明示する。 ●イラストの中で変化に気づいた点に印を付けるよう助言する。	考察の段階

C-1 指導案

4 成果と課題

(1) 成果

- ・生徒の学習課題の把握から課題解決への思考の流れがスムーズになった。
- ・「ねらい」を明確にすることで「つけたい力」が明らかとなり、授業構成や教材、発問の工夫へとつながった。
- ・生徒自身も「ついた力」を実感することができ、学習意欲の向上へとつながった。学年末アンケートでは「社会科が楽しい」と答えた生徒が90%を超えた。
- ・「支援シート」の活用により、資料に対する抵抗感が少なくなり、資料を積極的に読み取ろうとする生徒が増えた。
- ・プレゼンテーションソフトを使用することで複数の資料を融合することができ、効果的な資料提示につながった。

(2) 課題

- ・「考察」の過程の学習（グループ討議の方法、資料活用能力の育成）が不十分であったため、授業の最後まで課題解決意識が持続しないことがあった。
- ・1単位時間のねらいは明確にできたが、単元全体での「ねらい」や分野全体での「ねらい」を明確にしていく必要がある。
- ・ビデオクリップ作成には相当な時間を要するので、個人で作成する方法より、各地区の教育研究会の社会科部会等の組織単位で作成する方法が良いと思われる。

D-1 成果と課題